

第三回 e-Learning 研究会 一般講演

講義支援システムをサポートするツールについて A Support Tool for e-Learning System Jenzabar

小 林 泰 介*

1. は じ め に

2006年度の授業のために私が作成した講義支援システムをサポートするツールについて説明したい。今回のツールの目的は講師の事務作業を最小限にすることと講義支援システムには実装されていない有効と思われる機能を別のツールとして実装することである。参考になれば幸いである。

なお、本文書は執筆時点で国土館大学にて使用されている講義支援システム Jenzabar や CAI システムなどの利用方法、大学における運用方法などの知識を前提としている。

2. 過 去 の 経 緯

今回で Jenzabar 研究会も 3 回目なので過去にどのような報告をしたのかまとめてみた。

(1) 第 1 回 Jenzabar の効果的な利用法の一案などについて

Jenzabar を使いはじめたばかりなので、とりあえず便利そうな機能を使ってみた。学生が記名でファイルを提出しテキストを記述できる機能により、毎回授業の感想を書いてもらい学生とのコミュニケーションを密にすることを試みた。

(2) 第 2 回 PC 端末室での支援ツールの活用事例の報告

Jenzabar には無いチャット機能、キー入力キャプチャ機能を備えたプログラムを作成し、さらに学生からのフィードバックを得る工夫をした。

3. 2006年度支援ツールの活用事例

前回までは学生とのコミュニケーションに重きを置き工夫をした。今回はコミュニケーションはもとより講師の事務作業軽減にも焦点を当てた。以下に説明する。

(1) 出席管理

出席管理機能の入力は非常に煩雑であるが、出席情報を学生に見せることができる出力機能は優れていると感じた。そのため、入力は Excel で行うことにした。そして、Excel データを

* 国土館大学情報科学センター

Jenzabar へのアップロード形式のデータに変換するプログラムを作成することにより出席管理業務を大幅に軽減できた。

(2) 教材提示

教材提示機能は煩雑で機能が制限されているため、自由にコンテンツの編集ができる学内 Web サーバを使用することにより、自由なページを迅速に作ることができるようになった。

(3) 課題採点

課題採点も入力を使い難く出力は便利なので、Excel で採点したものを課題採点のアップロード形式に変換することにより入力の手間を省けた。

(4) テスト (試験)

問題形式の自由度が低く、各問に対する制限時間などの細かい設定もできないため、Web ベースのテストシステムを学内サーバ上に作成した。そのため、問題などのコンテンツ制作の事務的な負荷が軽減した。

(5) 相互採点

学生がお互いの作品を相互に評価しあうという機能が無かったため、Web ベースで作成した。相互評価結果は後程説明するが情報としては有用であった。

(6) 分析

分析機能が無かったため分析のためのデータを出力するプログラムを作成した。それをフリーのグラフツールで可視化することにより効率良く分析を行えた。

4. 分 析 結 果

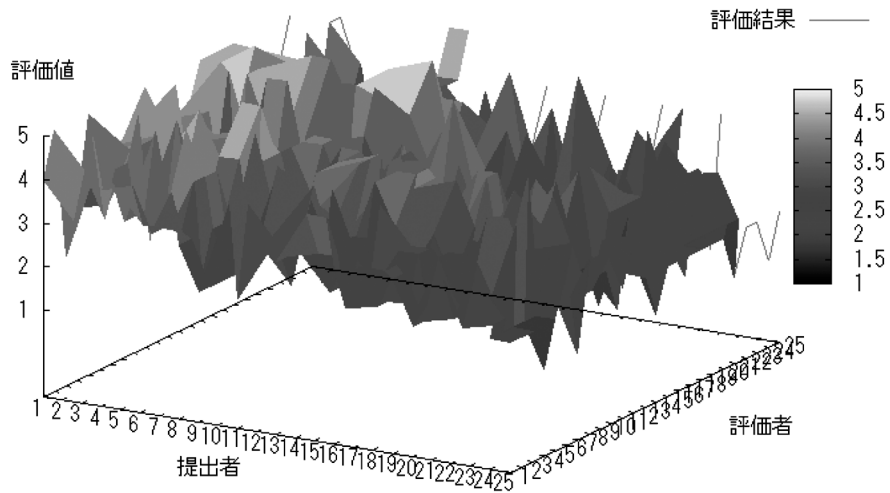
面白い結果が出たので 1 つだけ分析結果を紹介する。

下記のグラフで提出者と評価者の同じ番号は同じ人をあらわしている。また評価の平均点が最も高かった人を 1 とし、平均点の高い順にソートしてある。グラフの値は 1 点から 5 点で実際に評価した値を表している。グラフを見ると評価の高かったものは概ね評価の平均と同じ評価をしている。また評価の低かったものも概ね評価の平均と同じ評価をしている。ところが評価が真ん中くらいの集団はなんと評価の平均が真ん中の人に対して評価の平均より高い評価を与えている。

この結果は以下のように説明するとつじつまが合うように思える。

真ん中の評価の人は本人としてはかなりがんばって課題をこなしたのだろう。だが自分よりさらにがんばった人がいて、それは素直に認めた。が、自分自身のがんばりも認めて欲しいという願望から自分と同じくらいの集団に対しても高い評価を与えてしまったのでは無いだろうか。

相互評価について



5. ま と め

本文書は報告書の色合いが濃いので特にまとめは無いが、今回興味深いデータをいくつか得ることができた。来年度はデータ収集を中心に講義を工夫したいと考えている。また報告できる機会があれば報告したい。

6. 謝 辞

助言を頂いた先生方，IT サポートルームの方，その他，本システムの導入，運用などに携わった方々に感謝致します。